

平成 25 年度 青葉区区民意識調査結果 — 概要版 —

青葉区では、平成 25 年度区政運営方針として
「住みつづけたいまち『青葉』」を基本目標に掲げ、
その目標達成に向けた施策として

子育てに寄りそうまち
安心していきいきと暮らせるまち
地域の活力があふれるまち
大切な環境を守り育むまち

を推進しています。

平成 25 年度青葉区区民意識調査で得られた回答をもとに、この 4 つの施策に関する区民の皆さまの生活意識や、区政に対する満足度、要望等の集計報告を行います。

平成 25 年度青葉区区民意識調査 調査概要

調査の目的	青葉区にお住まいの皆さまの生活意識や区政に対する満足度、要望等を的確に把握し、今後の区政運営に活かしていくことを目的とする。
調査対象	青葉区内在住の 16 歳以上の男女 3,000 名（うち外国人 60 名）
抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出
調査方法	郵送によるアンケート方式
回答率	49.8%（有効回答者数 1,494 人）
調査期間	平成 25 年 6 月
設問分野	生活環境、子育て、防災、地域活動・地域社会、若者の就労、介護予防、健康、広報、環境、区制 20 周年、読書活動、定住意向 等
図表の見方	図（グラフ）の中で使用されているアルファベットの意味は次のとおり。 M A : 複数回答（マルチアンサー）の設問 N : その設問に対する回答者数

平成25年度 青葉区区民意識調査

目 次

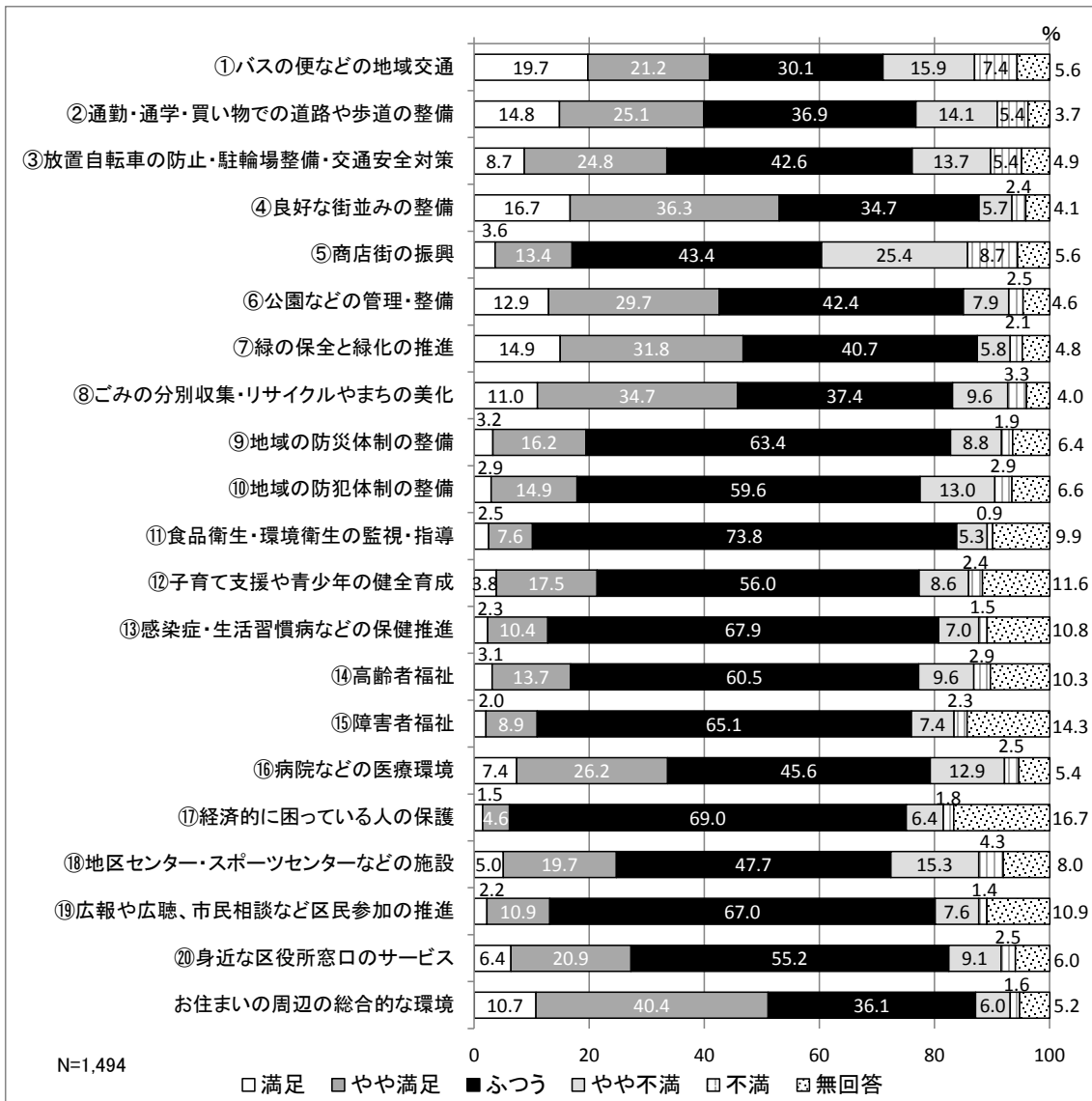
「住みつけたいまち『青葉』」	2
生活環境の満足度、以前との比較	2
住まいの周辺の環境にとって、とくに重要だと思うこと	5
区役所が取り組む課題として、とくに重要だと思うこと	5
青葉区、横浜市への愛着度	6
青葉区への定住意向	7
子育てに寄りそうまち	8
子育て中の不安、不満	8
乳幼児がいる家庭を支援するために充実すべきこと	9
安心していきいきと暮らせるまち	10
住宅用火災警報器の設置	10
ペットの有無と種類、ペットの防災に備えているか	10
介護予防講座・プログラムの認知度	11
健康状態について	11
自分の健康のために気をつけていること	12
喫煙の有無	12
大腸がん、子宮がん、乳がん検診の受診状況	13
地域の活力があふれるまち	14
参加してみたい地域活動	14
地域が抱える課題や問題	15
自治会・町内会への加入	17
自治会・町内会へ加入していない理由	17
自治会・町内会の加入についての意見	18
地域住民同士の協力関係を活性化するために必要なこと	19
困ったときに相談する相手	20
社会貢献についての考え方	21
地域ケアプラザの認知度	22
行政情報の入手方法	23
広報よこはま青葉区版で読む記事	23
大切な環境を守り育むまち	24
地球温暖化対策の取り組み	24
ごみと資源物を削減するために行っていること	25

「住みつけたいまち『青葉』」

生活環境の満足度、以前との比較

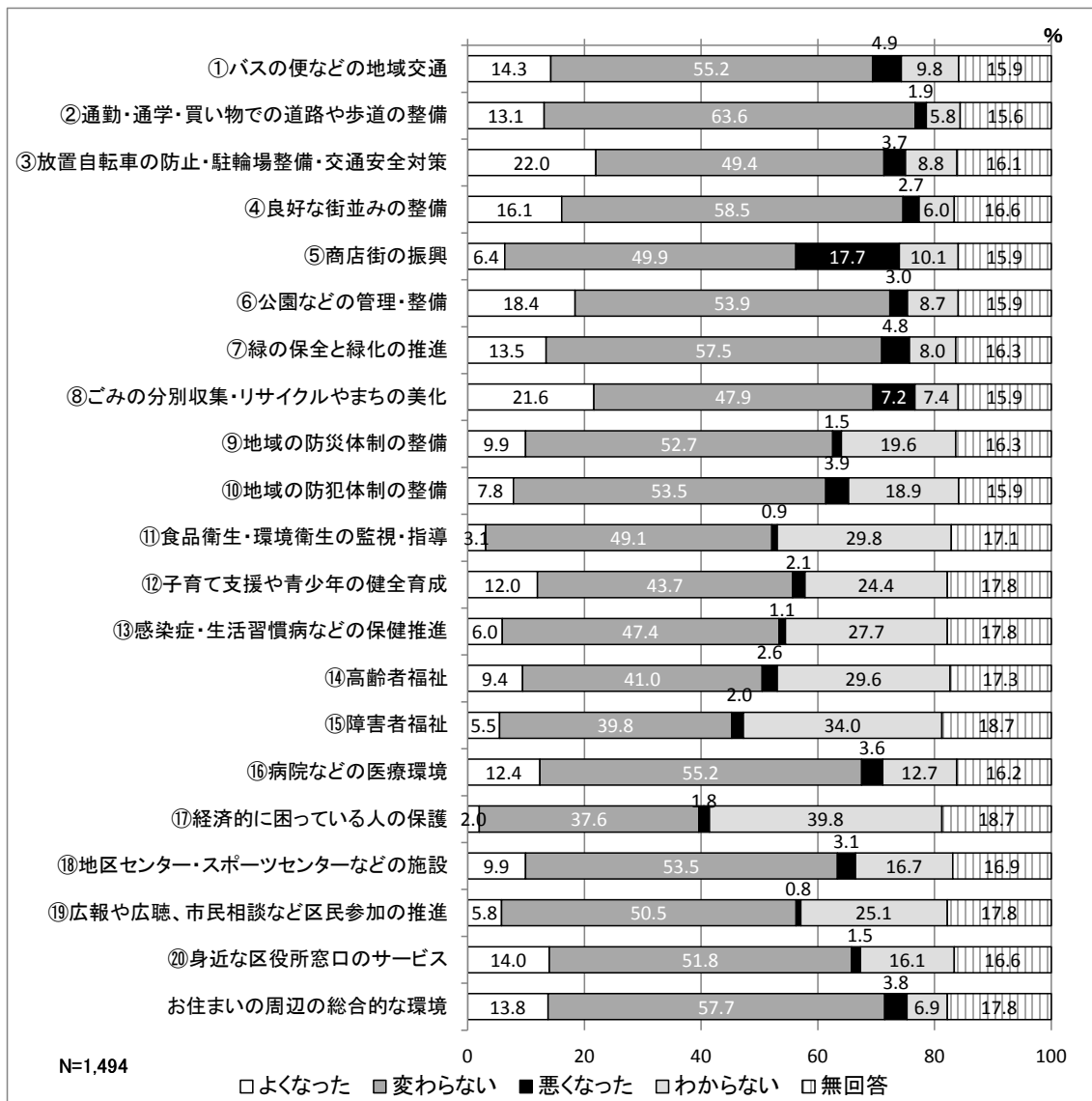
< 満足度 >

「満足」「やや満足」を合わせた数値の上位項目は、「良好な街並みの整備」「緑の保全と緑化の推進」「ごみの分別収集・リサイクルやまちの美化」「公園などの管理・整備」「バスの便などの地域交通」「通勤・通学・買い物での道路や歩道の整備」で、これら6項目のみ「満足」「やや満足」を合わせた数値が「ふつう」より高い数値となっている。



< 以前との比較 >

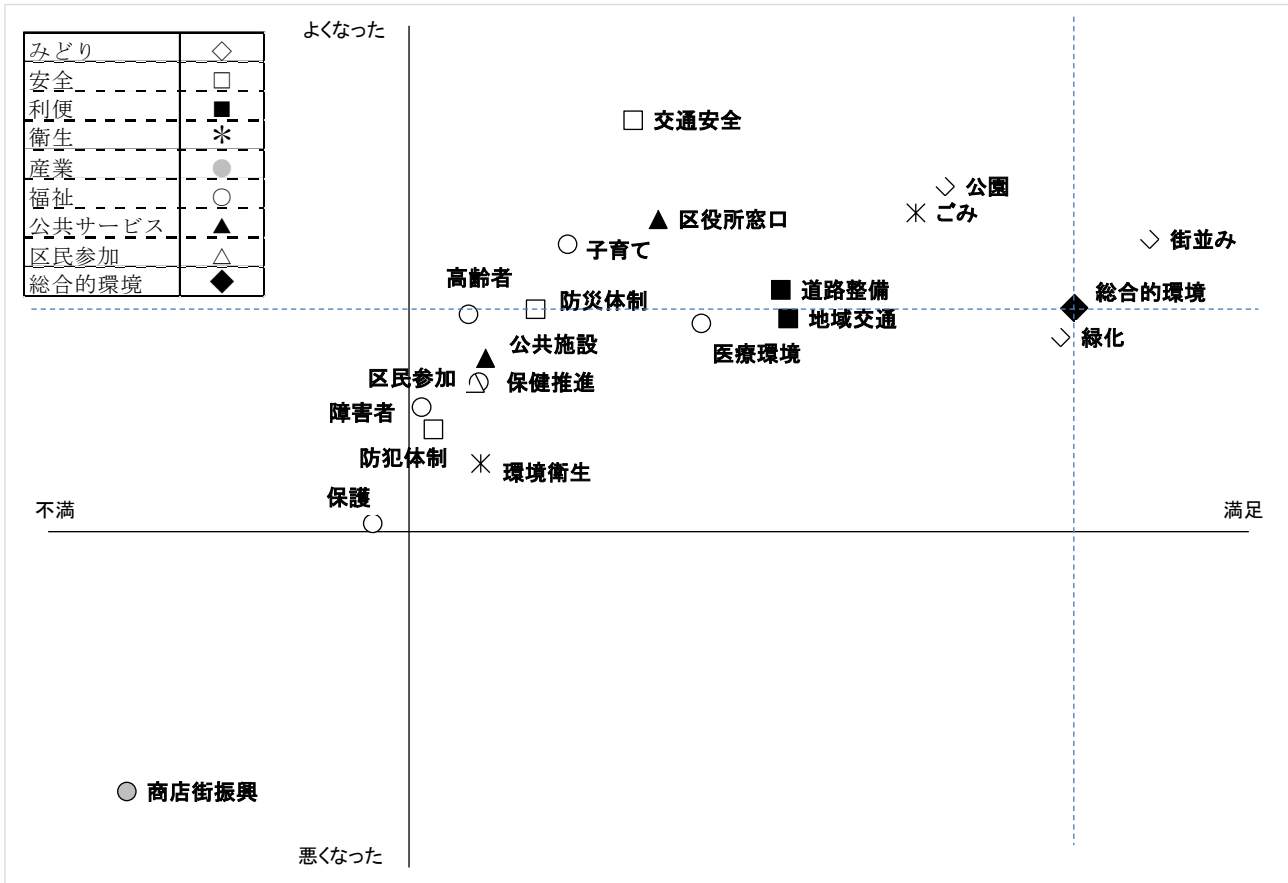
「よくなった」の数値が高いのは「放置自転車の防止・駐輪場整備・交通安全対策」「ごみの分別収集・リサイクルやまちの美化」「公園などの管理・整備」「良好な街並みの整備」「バスの便などの地域交通」が上位5項目である。「悪くなった」の数値が高いのは「商店街の振興」で、これのみ「悪くなった」が2割近い数値となっている。以下「ごみの分別収集・リサイクルやまちの美化」「バスの便などの地域交通」「緑の保全と緑化の推進」「食品衛生・環境衛生の監視・指導」が上位5項目である。



<『満足度』と『以前と比べた変化』の関係>

『満足度』『以前と比べた変化』について結果を点数化し、両者の関係をみると、『満足度』では、「商店街の振興」、「経済的に困っている人の保護」を除いて「満足」側にあり、『以前と比べた変化』では「商店街の振興」を除いて「よくなった」側に位置している。全体として、**青葉区の生活環境の評価は高い。**

『満足度』と『以前と比べた変化』の関係



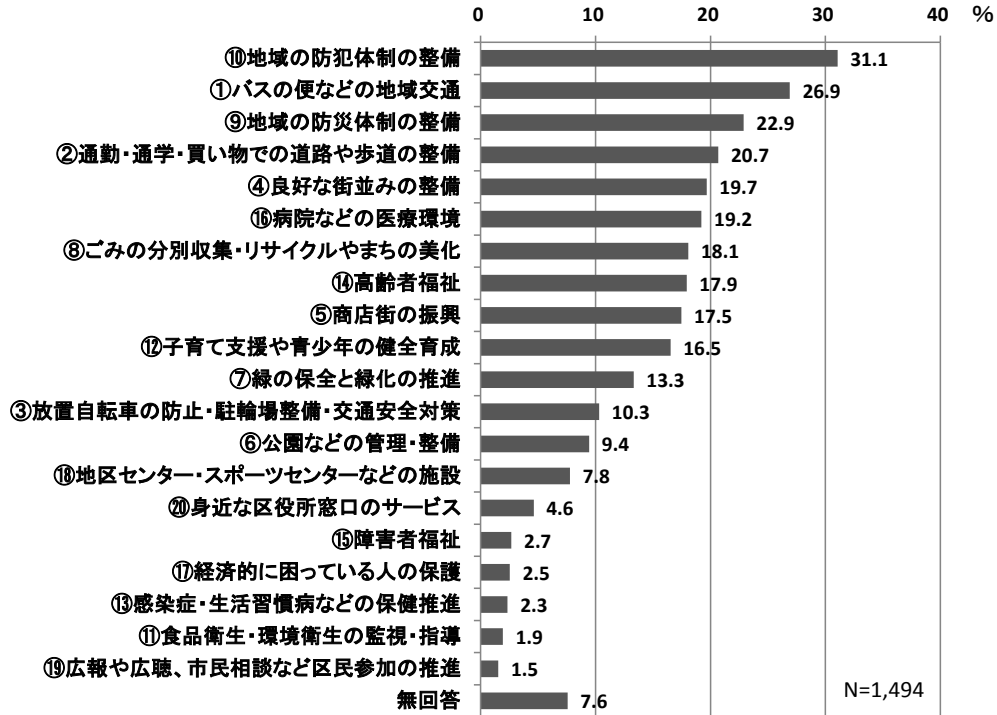
※満足度---「わからない」「無回答」を除いた構成比を用い、「満足」2点、「やや満足」1点、「ふつう」0点、「やや不満」-1点、「不満」-2点を付与して合計して算出

※以前と比べた変化---「わからない」「無回答」を除いた構成比を用い、「よくなった」1点、「かわらない」0点、「悪くなった」-1点を付与して合計して算出

設問項目	省略表記	分野
①バスの便などの地域交通	地域交通	利便
②通勤・通学・買い物での道路や歩道の整備	道路整備	利便
③放置自転車の防止・駐輪場整備・交通安全対策	交通安全	安全
④良好な街並みの整備	街並み	みどり
⑤商店街の振興	商店街振興	産業
⑥公園などの管理・整備	公園	みどり
⑦緑の保全と緑化の推進	緑化	みどり
⑧ごみの分別収集・リサイクルやまちの美化	ごみ	衛生
⑨地域の防災体制の整備	防災体制	安全
⑩地域の防犯体制の整備	防犯体制	安全
⑪食品衛生・環境衛生の監視・指導	環境衛生	衛生
⑫子育て支援や青少年の健全育成	子育て	福祉
⑬感染症・生活習慣病などの保健推進	保健推進	福祉
⑭高齢者福祉	高齢者	福祉
⑮障害者福祉	障害者	福祉
⑯病院などの医療環境	医療環境	福祉
⑰経済的に困っている人の保護	保護	福祉
⑱地区センター・スポーツセンターなどの施設	公共施設	公共サービス
⑲広報や広聴、市民相談など区民参加の推進	区民参加	区民参加
⑳身近な区役所窓口のサービス	区役所窓口	公共サービス
お住まいの周辺の総合的な環境	総合的環境	

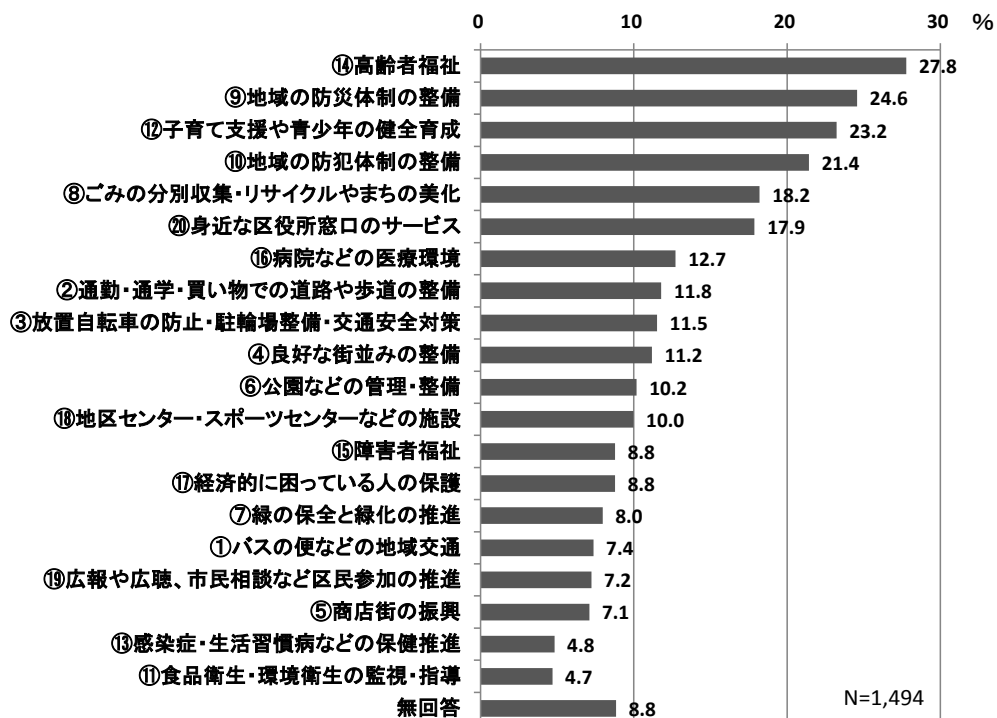
住まいの周辺の環境にとって、とくに重要だと思うこと

「地域の防犯体制の整備」が最も多く、3割以上の人が挙げている。次いで「バスの便などの地域交通」、「地域の防災体制の整備」、「通勤・通学・買い物での道路や歩道の整備」が2割台で続く。



区役所が取り組む課題として、とくに重要だと思うこと

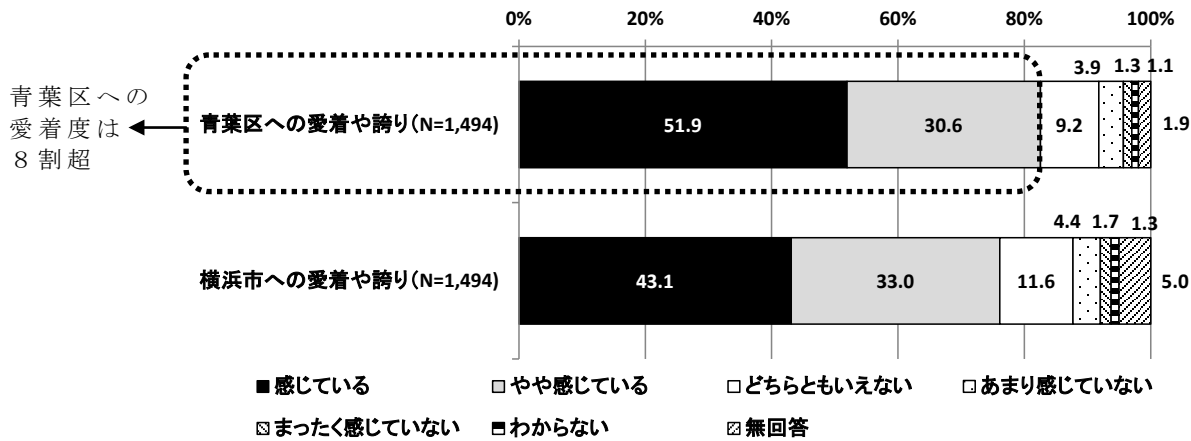
「高齢者福祉」が最も多く3割弱、次いで「地域の防災体制の整備」、「子育て支援や青少年の健全育成」、「地域の防犯体制の整備」が2割台である。



青葉区、横浜市への愛着度

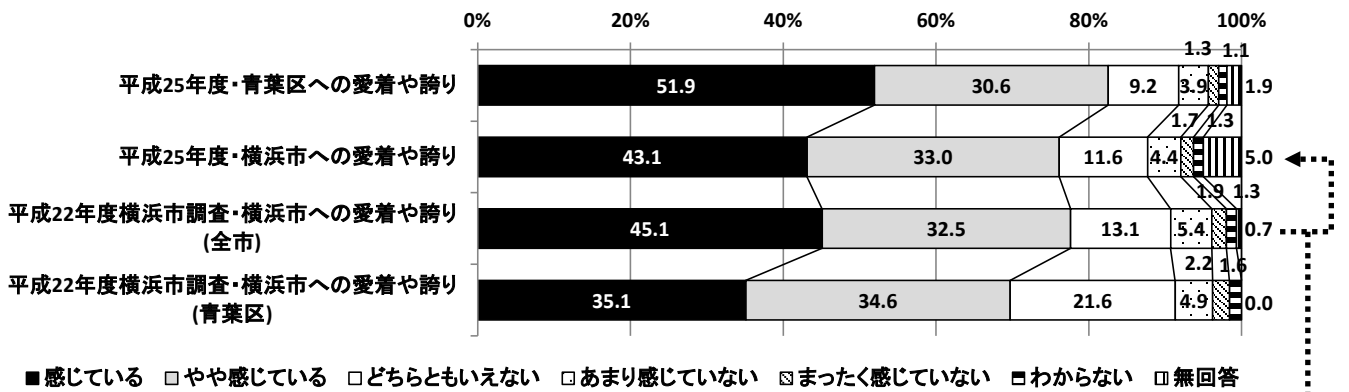
青葉区については、愛着や誇りを「感じている」「やや感じている」を合わせると8割を超える人が青葉区に愛着を感じるとしている。横浜市については、愛着を感じているのは全体の4分の3強となっている。

平成22年度横浜市民意識調査と比較すると、横浜市への愛着や誇りについては、今回調査ではわずかに低くなっている。



青葉区への愛着度は8割超

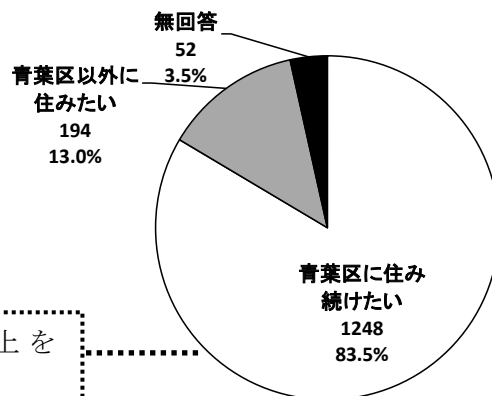
<参考 平成22年度横浜市民意識調査との比較>



わずかに低くなっている

青葉区への定住意向

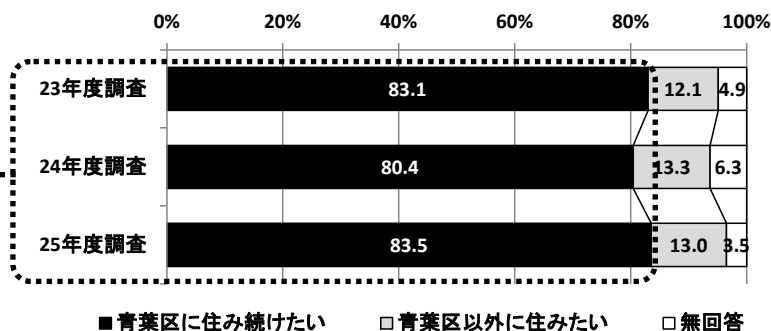
「青葉区に住み続けたい」が圧倒的に多く、8割以上を占める。平成23年度、24年度調査においても、「今住んでいるところに住み続けたい」「青葉区内のどこかに住み続けたい」を合わせた青葉区内への定住意向は8割を超えており、以前から変わらず高い水準を維持している。



定住意向は8割以上を維持

N=1,494

<参考 平成23年度、24年度調査結果との比較>



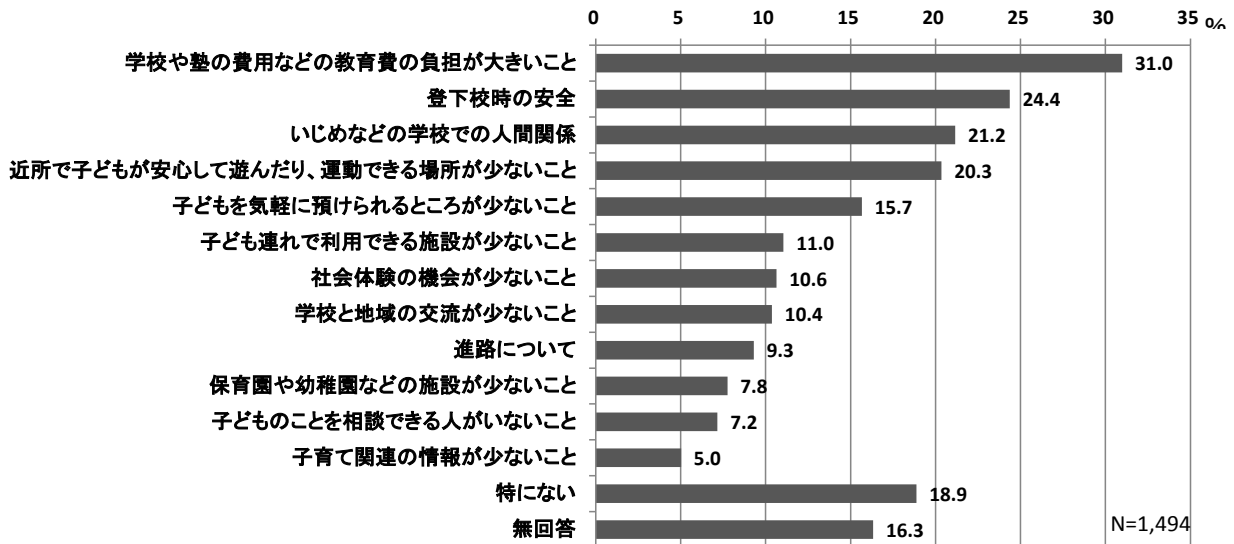
注) 平成23年度、24年度調査では今年度調査と選択肢が異なるため、平成23年度調査については、「今住んでいるところに住み続けたい」「青葉区内のどこかに住み続けたい」を合わせて「青葉区に住み続けたい」、「青葉区以外の横浜市に住みたい」「横浜市外に住みたい」を合わせて「青葉区以外に住みたい」としている。

平成24年度調査については「今住んでいるところに住み続けたい」「青葉区内のどこかに住み続けたい」を合わせて「青葉区に住み続けたい」、「青葉区以外の横浜市に住みたい」「川崎市に住みたい」「横浜市、川崎市以外の神奈川県内に住みたい」「町田市に住みたい」「東京23区に住みたい」「その他の地域に住みたい」を合わせて「青葉区以外に住みたい」としている。

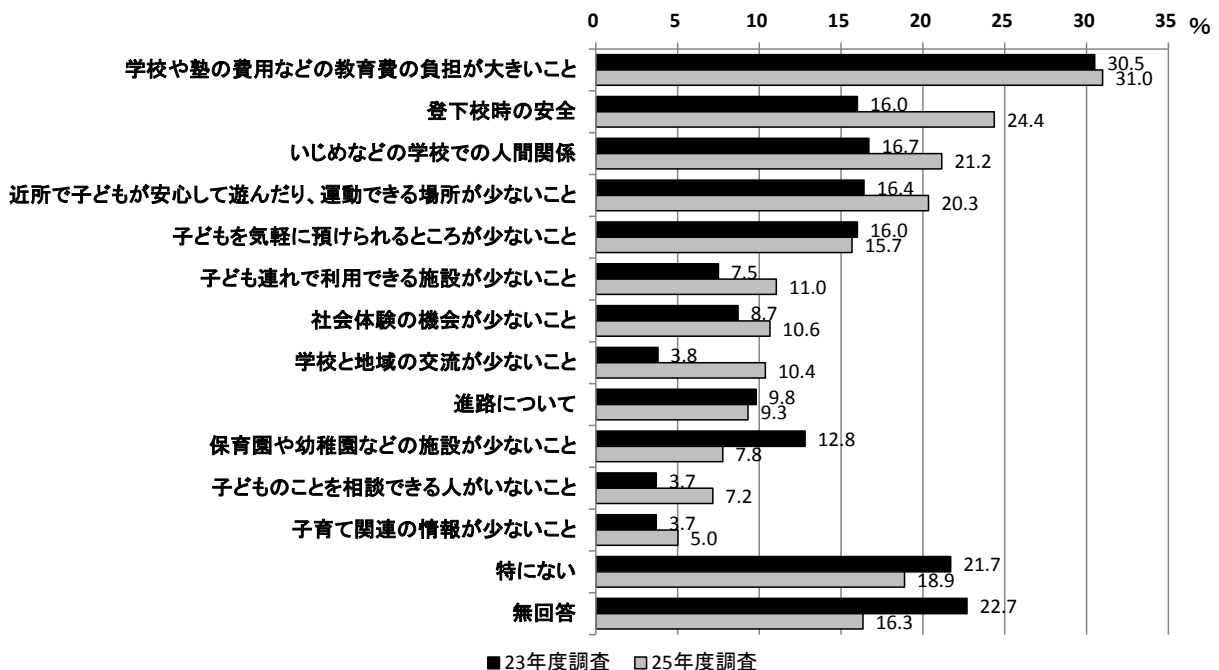
子育てに寄りそうまち

子育て中の不安、不満

「学校や塾の費用などの教育費の負担が大きいこと」を3割超、「登下校時の安全」、「いじめなどの学校での人間関係」、「近所で子どもが安心して遊んだり、運動できる場所が少ないこと」を2割以上の方が挙げている。平成23年度調査と比較すると、「登下校時の安全」、「学校と地域の交流が少ないこと」、「いじめなどの学校での人間関係」が増加している。一方「保育園や幼稚園などの施設が少ないこと」は改善傾向が見られる。

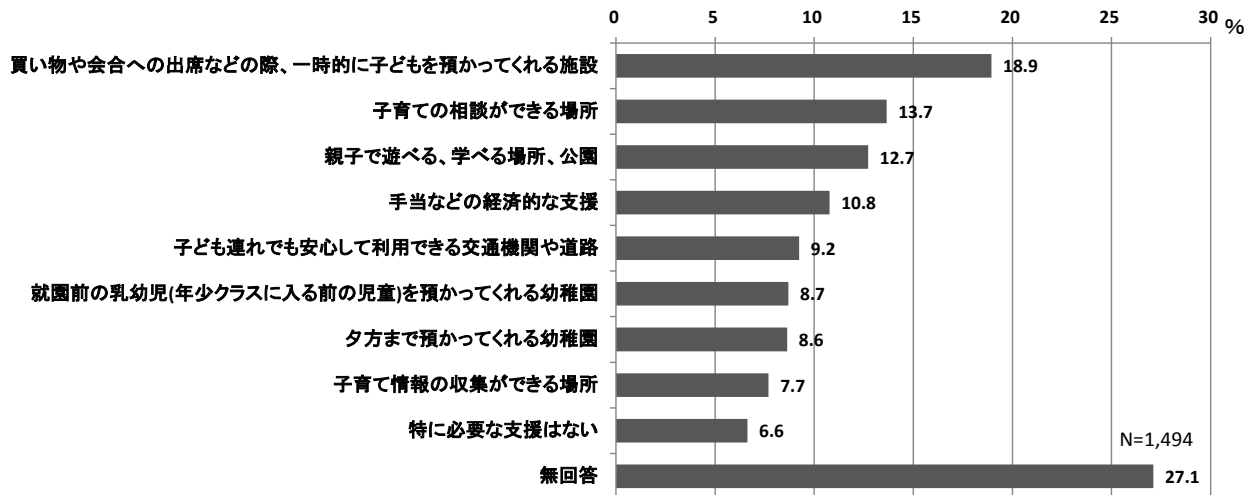


< 参考 平成23年度調査結果との比較 >

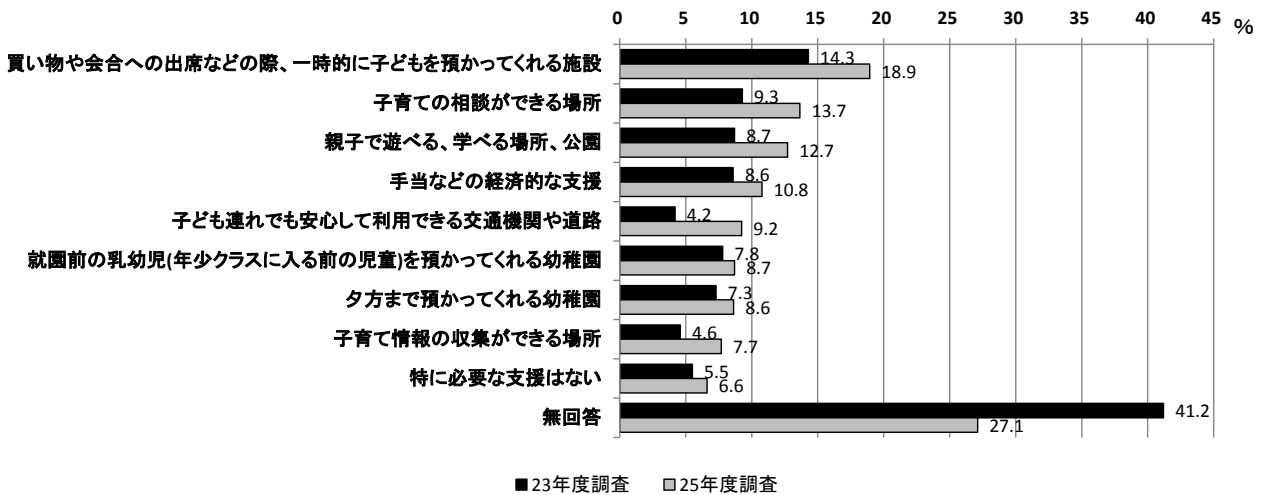


乳幼児がいる家庭を支援するために充実すべきこと

「買い物や会合への出席などの際、一時的に子どもを預かってくれる施設」を2割弱の人が挙げている。以下「子育ての相談ができる場所」、「親子で遊べる、学べる場所、公園」、「手当などの経済的な支援」などと続く。平成23年度調査と比較すると、上位4位までの順位に変動はないが、「子ども連れでも安心して利用できる交通機関や道路」が9位から5位に浮上している。

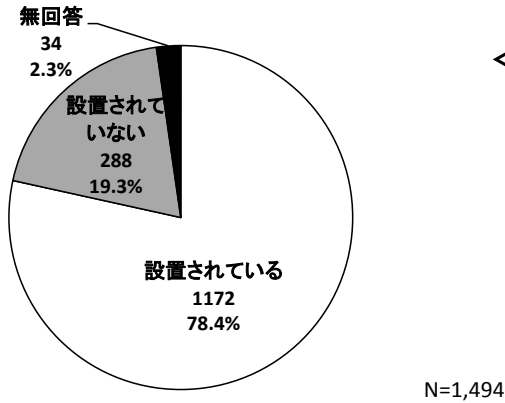


< 参考 平成23年度調査結果との比較 >

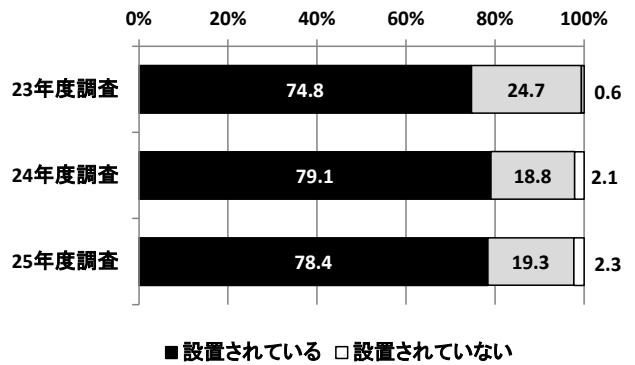


住宅用火災警報器の設置

設置率は8割近くに達しているが、まだ感知器が設置されていない住宅も2割弱存在している。24年度調査と比較すると、ほぼ横ばいである。

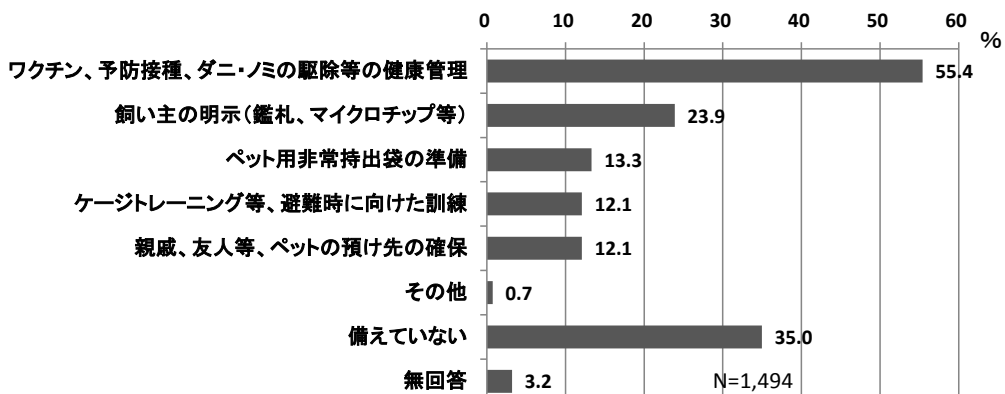
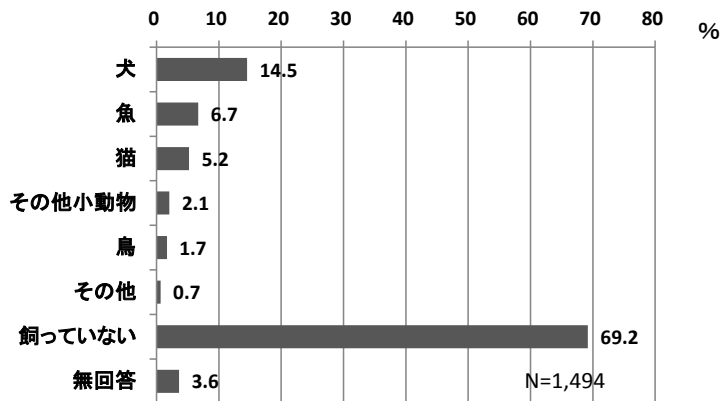


<参考 平成23年度、24年度調査結果との比較>



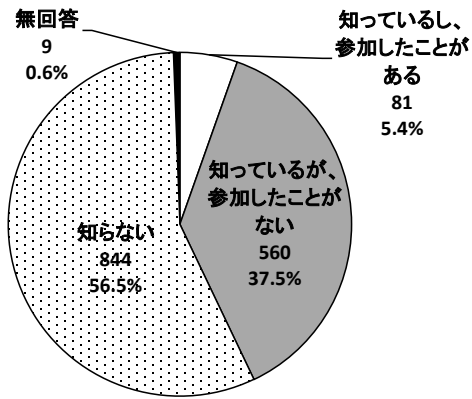
ペットの有無と種類、ペットの防災に備えているか

「飼っていない」が突出して多く7割近くに達する。飼っているペットで最も多いのは「犬」である。防災対策として「ワクチン、予防接種、ダニ・ノミの駆除等の健康管理」に過半数の人が対応している一方、「備えていない」も3割を超える。



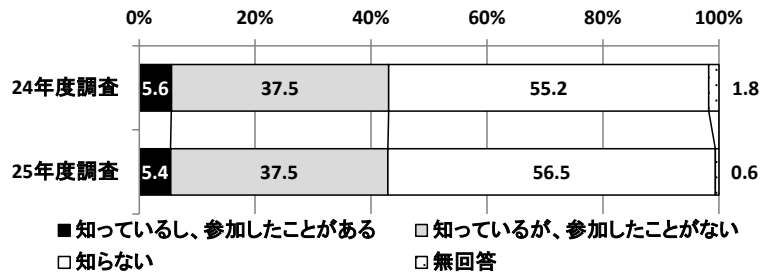
介護予防講座・プログラムの認知度

「知らない」が過半数を占めており、平成24年度調査と同様の傾向である。「知っているが、参加したことがない」「知っているし、参加したことがある」を合わせると、認知度は4割強である。



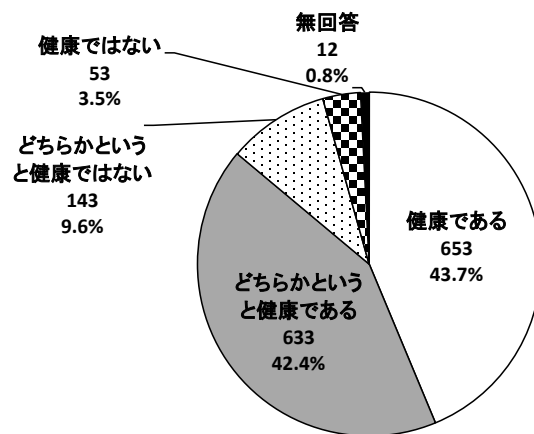
N=1,494

<参考 平成24年度調査結果との比較>



健康状態について

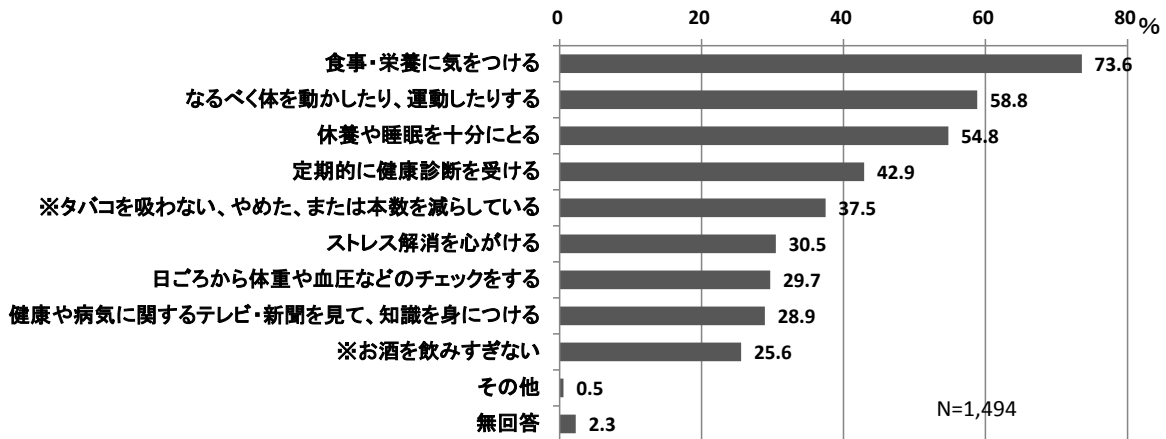
「健康である」、「どちらかという健康である」がともに4割強でほぼ拮抗しており、これらを合わせると8割以上が自分の健康状態は良いと考えている。



N=1,494

自分の健康のために気をつけていること

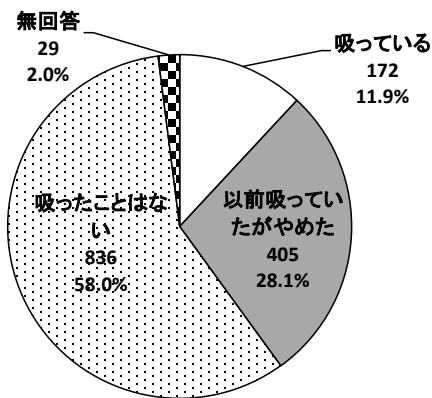
「食事・栄養に気をつける」が最も多く、7割以上の方が挙げている。次いで「なるべく体を動かしたり、運動したりする」、「休養や睡眠を十分にとる」が5割台で続く。



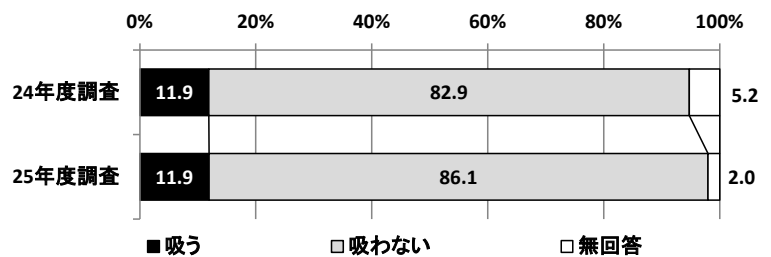
注) ※印の項目は 20 歳以上の方のみ

喫煙の有無

「吸ったことはない」が最も多く、「吸ったことはない」「以前吸っていたがやめた」を合わせると**非喫煙者が9割近くを占める**。喫煙者は1割程度で、平成 24 年度調査と比較すると、数値は横ばいとなっている。



<参考 平成 24 年度調査結果との比較>



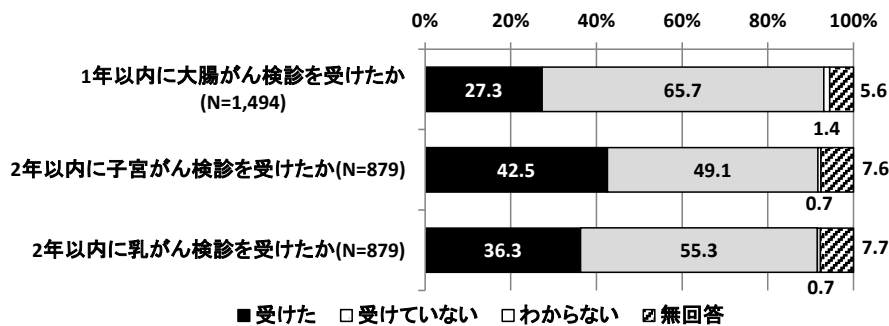
N=1,442

注) 25 年度調査の「吸わない」は、「以前吸っていたがやめた」「吸ったことはない」を合わせた数値となっている。

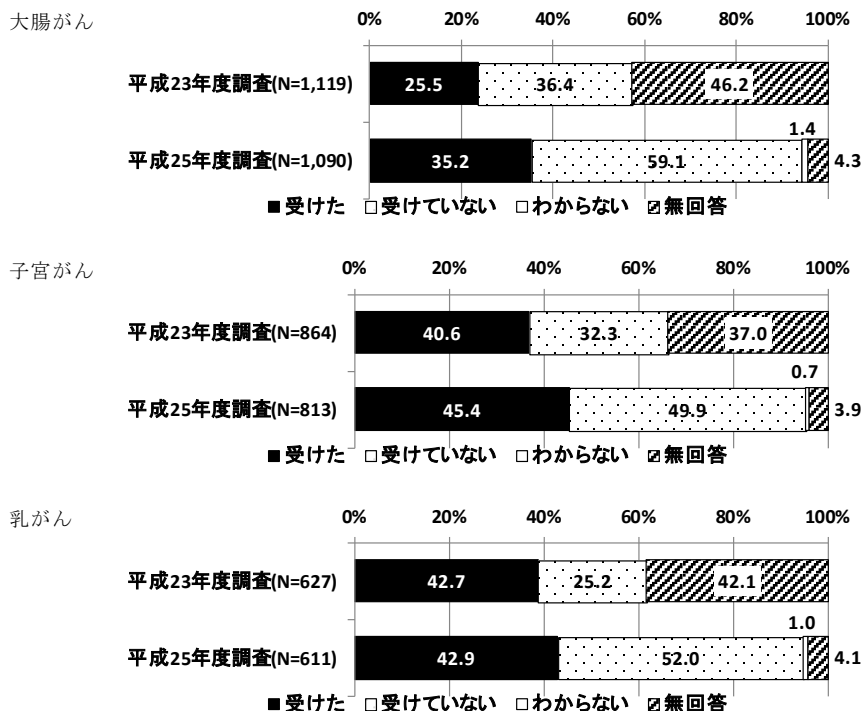
大腸がん、子宮がん、乳がん検診の受診状況

検診対象年齢（大腸がん検診 40 歳以上男女、子宮がん検診 20 歳以上女性、乳がん検診 40 歳以上女性）についてみると、いずれも「受けていない」が「受けた」より高い割合となっている。大腸がんについては「受けていない」の方が「受けた」を大きく上回っており、受診率が低い。

平成 23 年度調査と比較すると、選択肢は一部異なるものの、「受けた」の数値が、大腸がん検診では 9.7 ポイント、子宮がん検診では 4.8 ポイント、乳がん検診では 0.2 ポイント増加している。



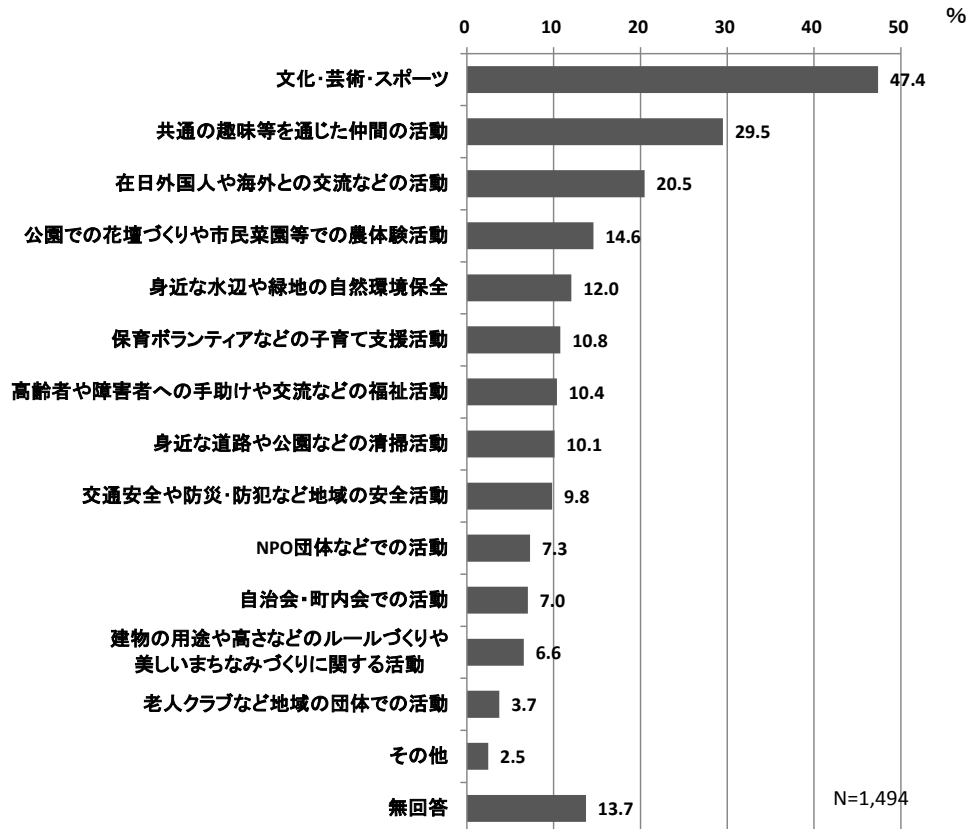
< 参考 平成 23 年度調査結果との比較 >



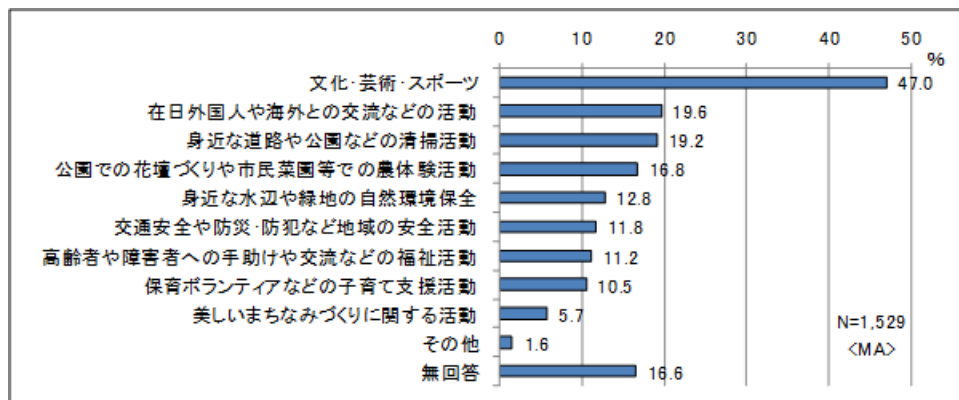
地域の活力があふれるまち

参加してみたい地域活動

「文化・芸術・スポーツ」が突出して多く、半数近くの人が挙げている。次いで「共通の趣味等を通じた仲間の活動」を約3割が挙げており、**文化的活動や趣味に関わる活動**を中心に参加意欲が高くなっている。



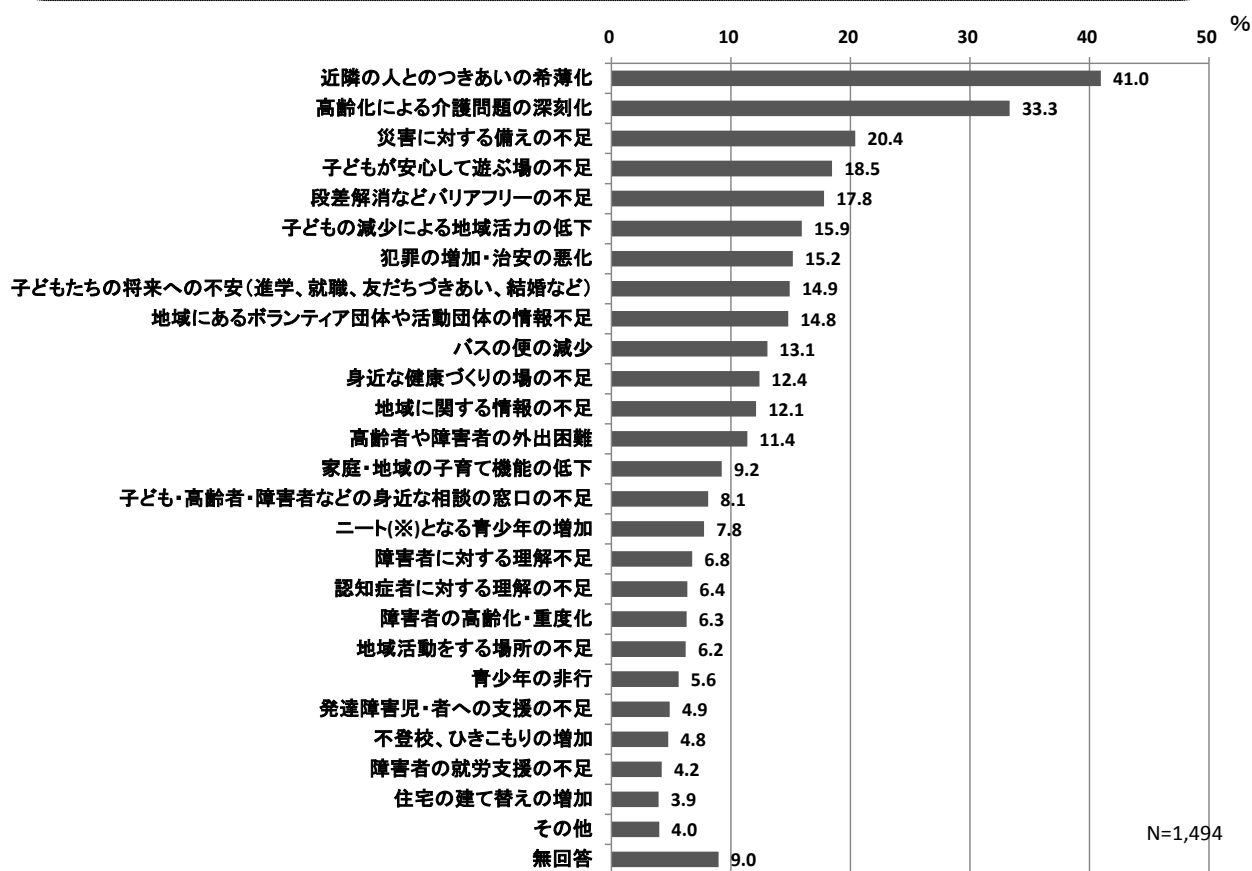
< 参考 平成 24 年度調査結果との比較 >



地域が抱える課題や問題

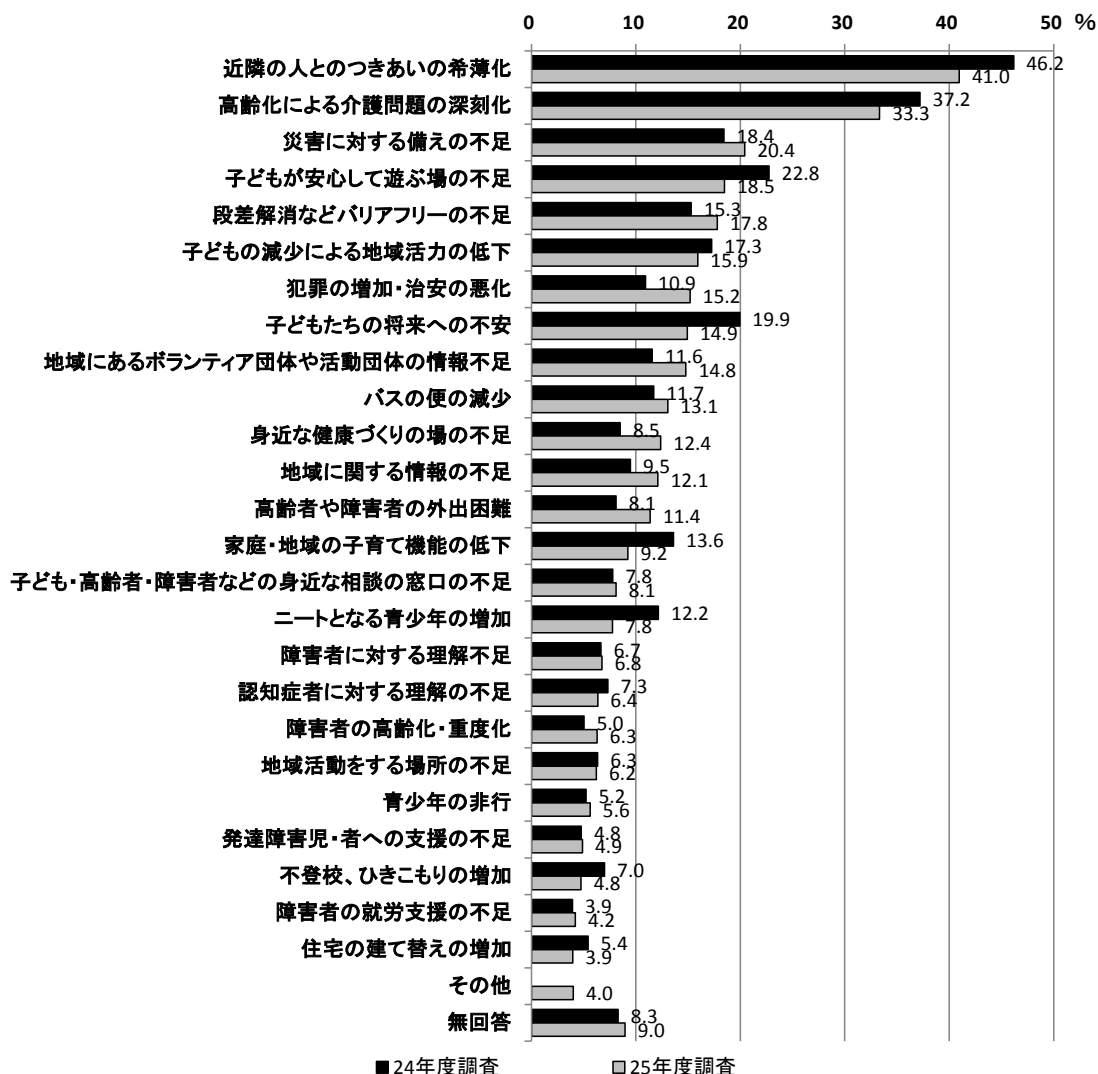
「近隣の人とのつきあいの希薄化」が最も多く、4割強の人が挙げている。次いで「高齢化による介護問題の深刻化」についても3割以上の方が挙げている。

平成24年度調査と比較すると、「近隣の人とのつきあいの希薄化」「高齢化による介護問題の深刻化」が上位2項目であることに変わりはない。また、「近隣の人とのつきあいの希薄化」、「子どもたちの将来への不安」、「ニートとなる青少年の増加」「家庭・地域の子育て機能の低下」、「子どもが安心して遊ぶ場の不足」がそれぞれ減少し、子どもに関する課題で好転している傾向が見られる。一方「犯罪の増加・治安の悪化」が増加している。



※ニート（就労・就学しておらず、なおかつ働く意思も、学ぶ意思も持たない若者）

<参考 平成 24 年度調査結果との比較>



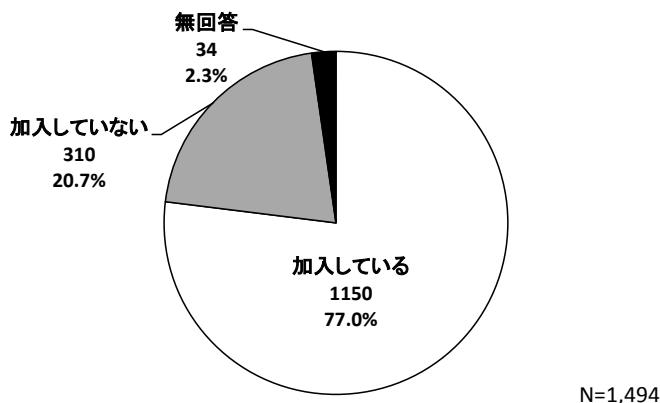
<参考 平成 24 年度調査結果との比較 上位 16 項目>

24年度		25年度	
近隣の人とのつきあいの希薄化	46.2	近隣の人とのつきあいの希薄化	41.0
高齢化による介護問題の深刻化	37.2	高齢化による介護問題の深刻化	33.3
子どもが安心して遊ぶ場の不足	22.8	災害に対する備えの不足	20.4
子どもたちの将来への不安	19.9	子どもが安心して遊ぶ場の不足	18.5
災害に対する備えの不足	18.4	段差解消などバリアフリーの不足	17.8
子どもの減少による地域活力の低下	17.3	子どもの減少による地域活力の低下	15.9
段差解消などバリアフリーの不足	15.3	犯罪の増加・治安の悪化	15.2
家庭・地域の子育て機能の低下	13.6	子どもたちの将来への不安	14.9
ニートとなる青少年の増加	12.2	地域にあるボランティア団体や活動団体の情報不足	14.8
バスの便の減少	11.7	バスの便の減少	13.1
地域にあるボランティア団体や活動団体の情報不足	11.6	身近な健康づくりの場の不足	12.4
犯罪の増加・治安の悪化	10.9	地域に関する情報の不足	12.1
地域に関する情報の不足	9.5	高齢者や障害者の外出困難	11.4
身近な健康づくりの場の不足	8.5	家庭・地域の子育て機能の低下	9.2
高齢者や障害者の外出困難	8.1	子ども・高齢者・障害者などの身近な相談の窓口の不足	8.1
子ども・高齢者・障害者などの身近な相談の窓口の不足	7.8	ニート(※)となる青少年の増加	7.8

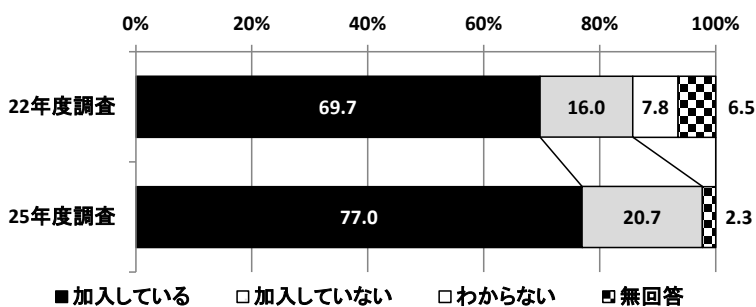
注) 薄い網掛けは 2 つ以上順位を上げた項目、濃い網掛けは 2 つ以上順位を下げた項目

自治会・町内会への加入

「加入している」が全体の4分の3以上を占める。「加入していない」は約2割である。平成22年度調査当時に比べて**加入率は7.3ポイント改善**している。

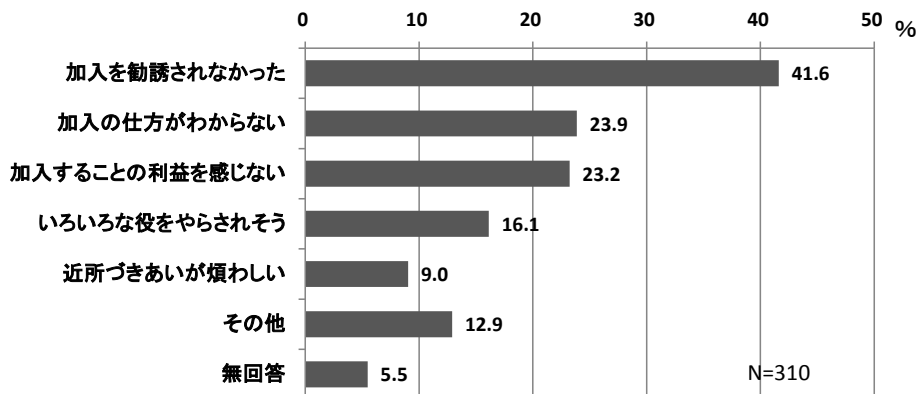


<参考 平成22年度調査結果との比較>



自治会・町内会へ加入していない理由

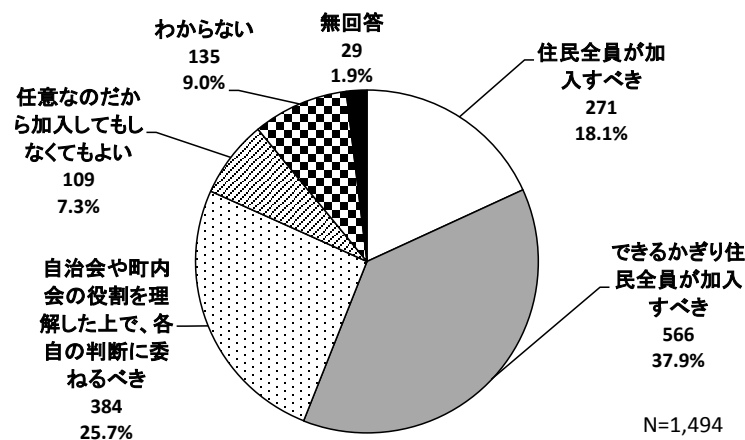
「加入を勧誘されなかった」が4割強で最も多い。次いで「加入の仕方がわからない」、「加入することの利益を感じない」がほぼ並ぶ。



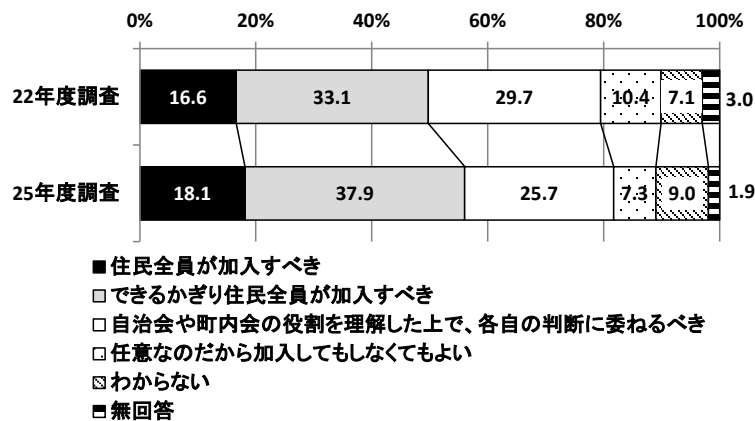
自治会・町内会の加入についての意見

「できるかぎり住民全員が加入すべき」が最も多く、4割弱となっている。次いで「自治会や町内会の役割を理解した上で、各自の判断に委ねるべき」が全体の約4分の1、「住民全員が加入すべき」は2割弱である。「住民全員が加入すべき」「できるかぎり住民全員が加入すべき」を合わせると、**自治会町内会への加入に積極的な人は過半数**に達している。

平成22年度調査と比較すると、22年度調査では「住民全員が加入すべき」「できるかぎり住民全員が加入すべき」を合わせた数値は半数に達しておらず、ここ数年で自治会・町内会への参加意識が高まった傾向がうかがえる。



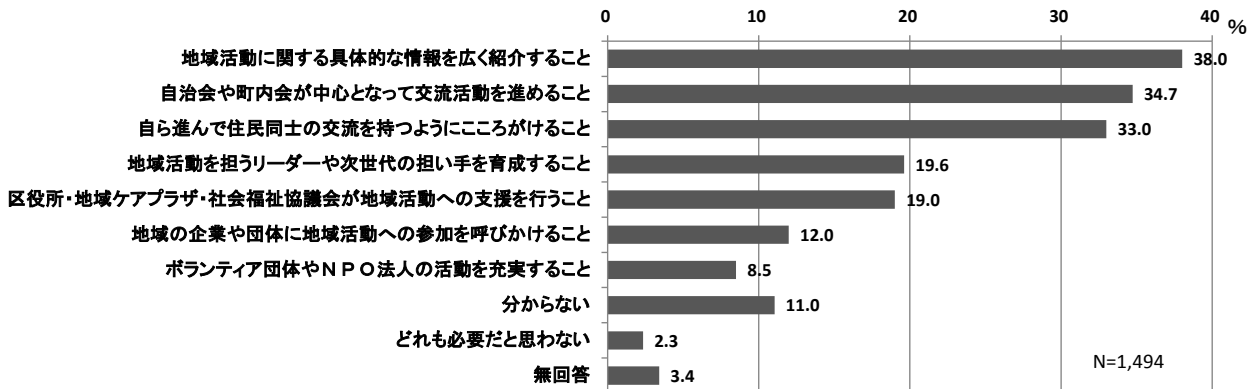
<参考 平成22年度調査結果との比較>



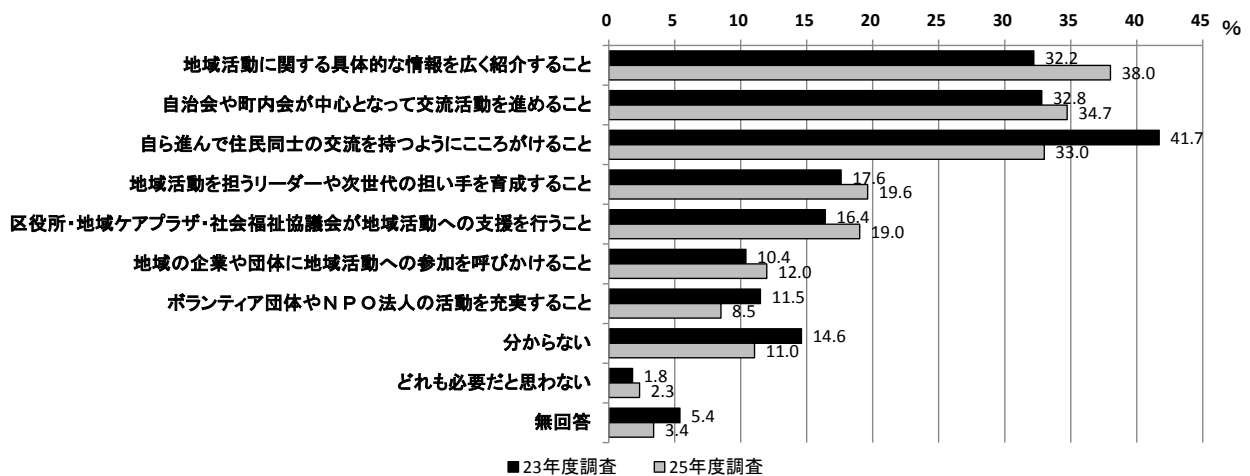
地域住民同士の協力関係を活性化するために必要なこと

最も多いのは「地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること」、以下「自治会や町内会が中心となって交流活動を進めること」、「自ら進んで住民同士の交流を持つようにこころがけること」を3割を超える人が挙げている。

平成23年度調査と比較すると、3位だった「地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること」が今回は1位となっている。また、前回1位だった「自ら進んで住民同士の交流を持つようにこころがけること」は3位に後退している。

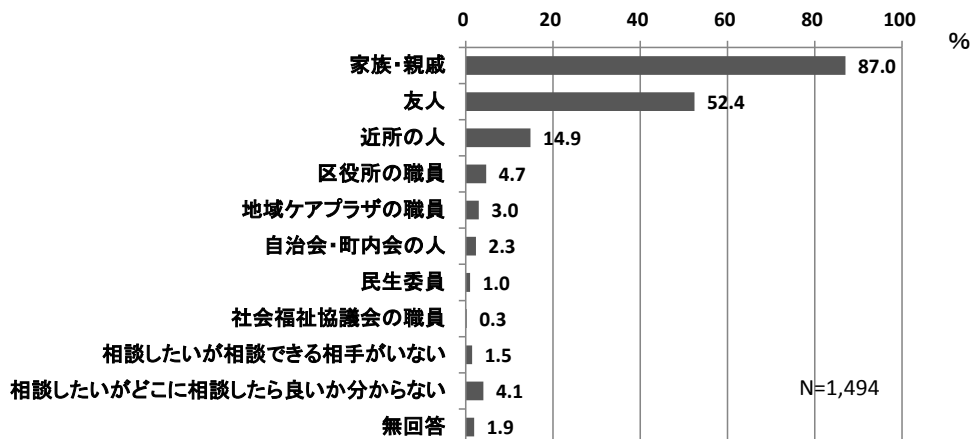


< 参考 平成23年度調査結果との比較 >

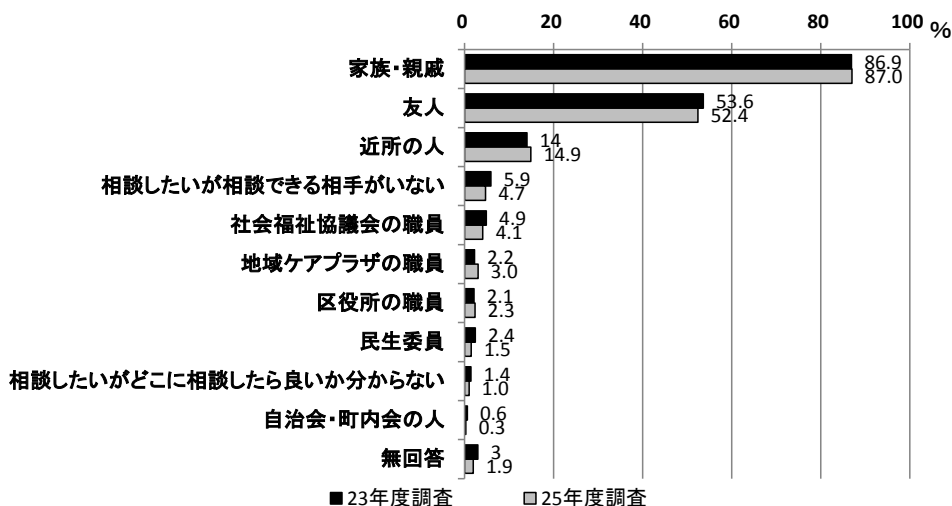


困ったときに相談する相手

平成 23 年度調査と同様、「家族・親戚」が圧倒的に多く、9 割近い人が挙げている。次いで「友人」が半数強となっている。



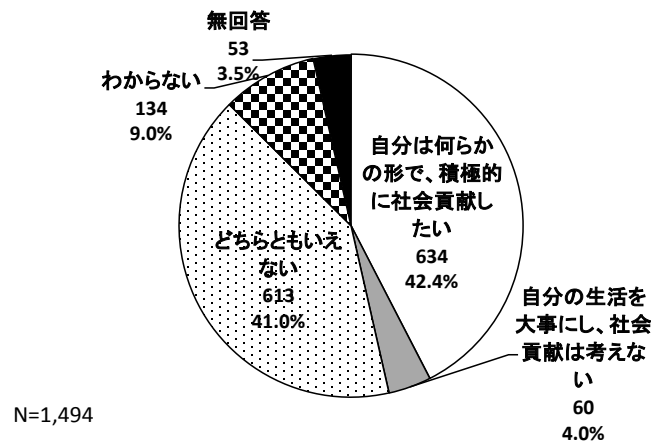
< 参考 平成 23 年度調査結果との比較 >



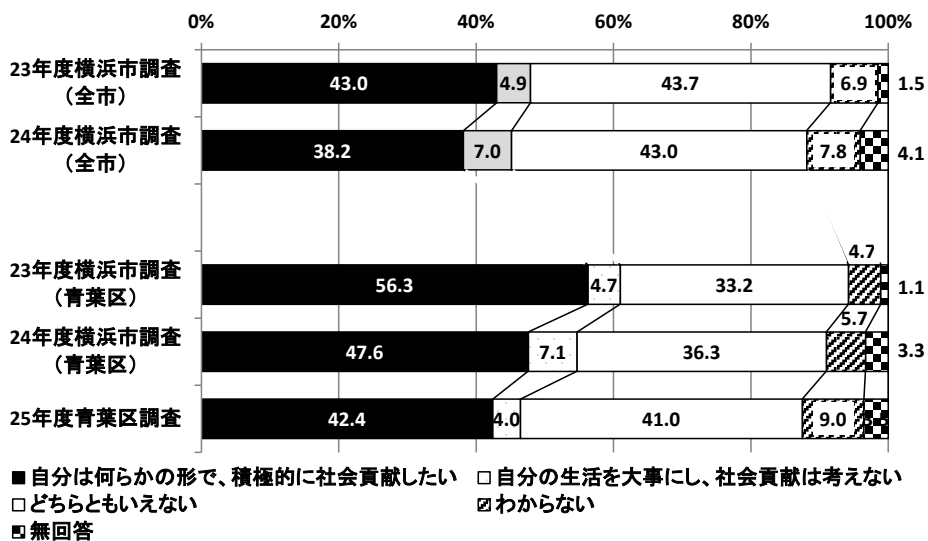
社会貢献についての考え方

「自分は何らかの形で、積極的に社会貢献したい」が最も多いが、「どちらともいえない」もともに4割強で拮抗している。

横浜市民意識調査をみてみると、横浜市全市については、平成23年度調査では「自分は何らかの形で、積極的に社会貢献したい」が「どちらともいえない」と拮抗して4割台になっていたのに対し、翌24年度調査においては3割台となっている。青葉区だけの数値をみると、平成23年度は「自分は何らかの形で、積極的に社会貢献したい」が過半数に達し、翌24年度調査でも5割近くを維持している。今回調査では「自分は何らかの形で、積極的に社会貢献したい」が「どちらともいえない」を僅かながら上回り、**青葉区では市全体と比較すると社会貢献への意欲は格段に高い傾向にあるが、経年変化では年々数値が減少している。**

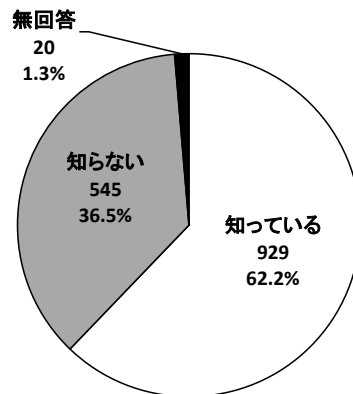


<参考 平成23年度、24年度横浜市民意識調査との比較>



地域ケアプラザの認知度

「知っている」が6割強で「知らない」を25.7ポイント上回っている。



N=1,494

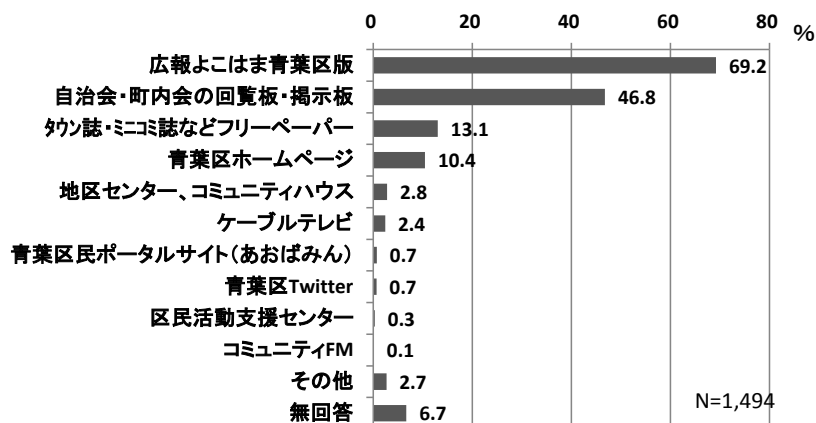
ケアプラザエリア図



地域ケアプラザ：誰もが住み慣れた地域で安心した生活を送ることができるように、福祉・保健サービス等を身近な場所で総合的に提供し、どなたにでもご利用できる地域のみなさんの施設です。各種講座・教室の開催、広報誌などを通じての情報提供、地域での活動・交流の場として会場の貸し出し等を行っています。また、保健師等・社会福祉士・主任ケアマネジャーなどの専門スタッフが、各種相談や介護予防のケアプラン作成などに応じる地域包括支援センターがあります。

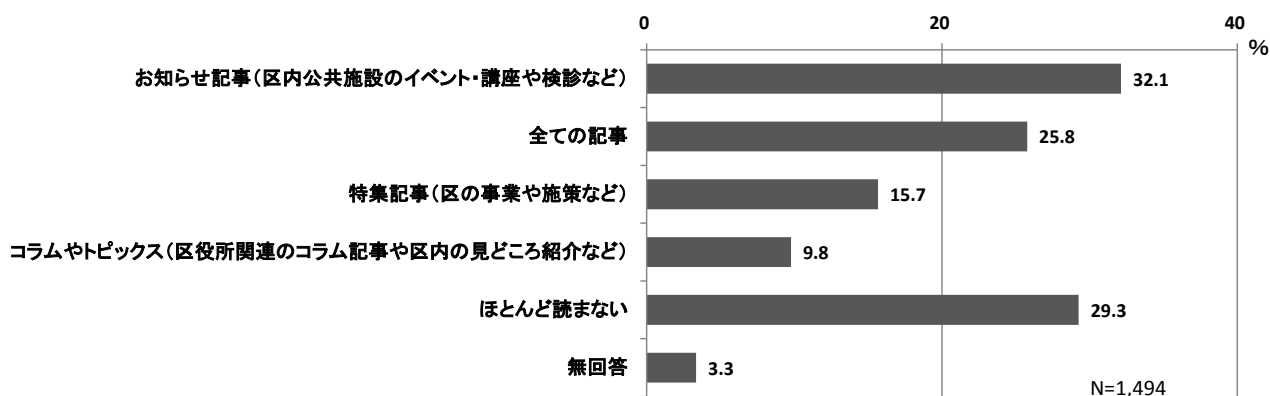
行政情報の入手方法

「広報よこはま青葉区版」が7割近くに達し、突出している。次いで「自治会・町内会の回覧板・掲示板」を半数近くの人が挙げている。



広報よこはま青葉区版で読む記事

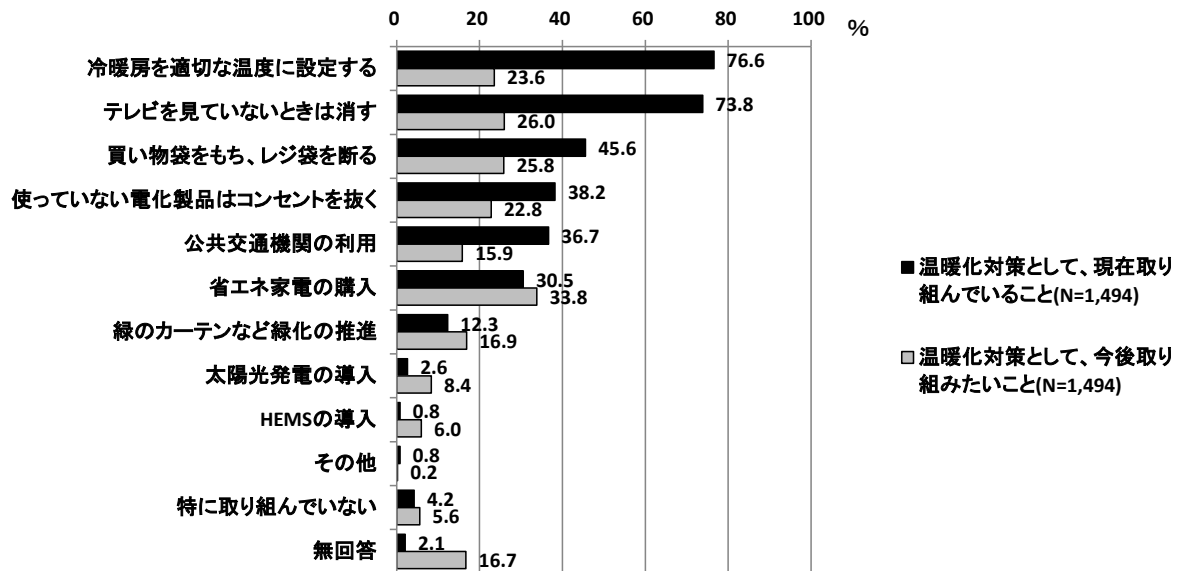
「お知らせ記事(区内公共施設のイベント・講座や検診など)」が最も多く、3割強の人が挙げている。次いで「全ての記事」となっている。一方、「ほとんど読まない」も3割近くに達している。



大切な環境を守り育むまち

地球温暖化対策の取り組み

現在取り組んでいることとしては「冷暖房を適切な温度に設定する」、「テレビを見ていないときは消す」の2つは7割以上の方が挙げている。今後取り組みたいこととしては「省エネ家電の購入」が最も多く3割以上が挙げている。今後取り組みたいことが現在取り組んでいることより高い数値となっているのは「太陽光発電の導入」「HEMSの導入」「緑のカーテンなど緑化の推進」「省エネ家電の購入」で、現在の取り組み状況において下位にあるもの、導入に資金や条件が必要なものが上がっている。



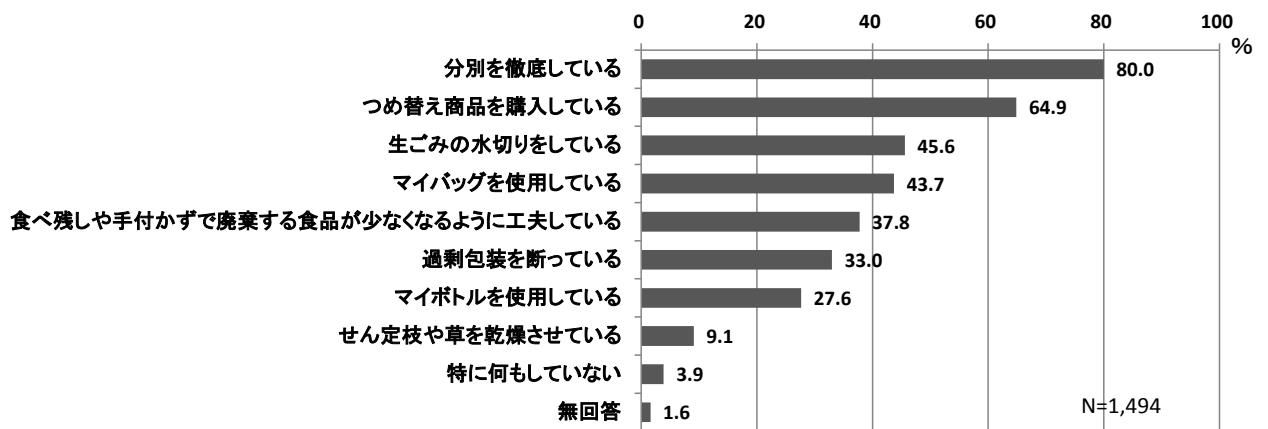
※HEMS(ヘムス)(Home(ホーム) Energy(エネルギー) Management(マネジメント) System(システム)/家庭用エネルギー管理機器)は、各家庭の電力使用量などを「見える化」し、パソコンなどで電力の使用状況を確認できる機器です。横浜市では、HEMS導入費の一部を補助しています。

ごみと資源物を削減するために行っていること

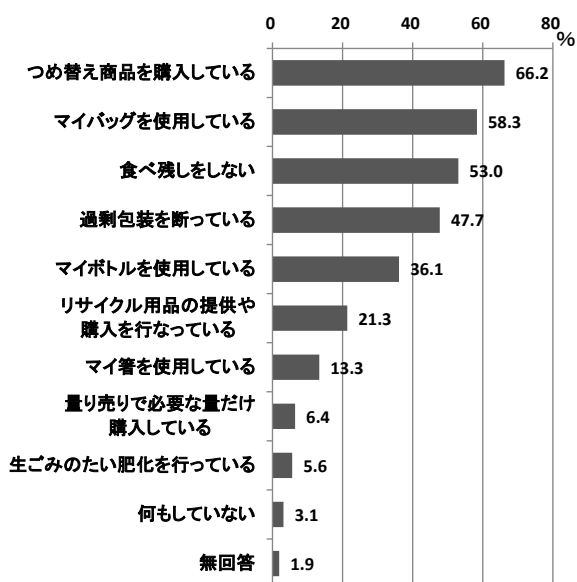
「分別を徹底している」を8割の人が挙げている。次いで「つめ替え商品を購入している」が6割強である。

平成23年度調査では、選択肢が異なるが、「詰替え商品を購入している」が最も多く7割近く、次いで「マイバッグを使用している」を6割近くの人が挙げている。

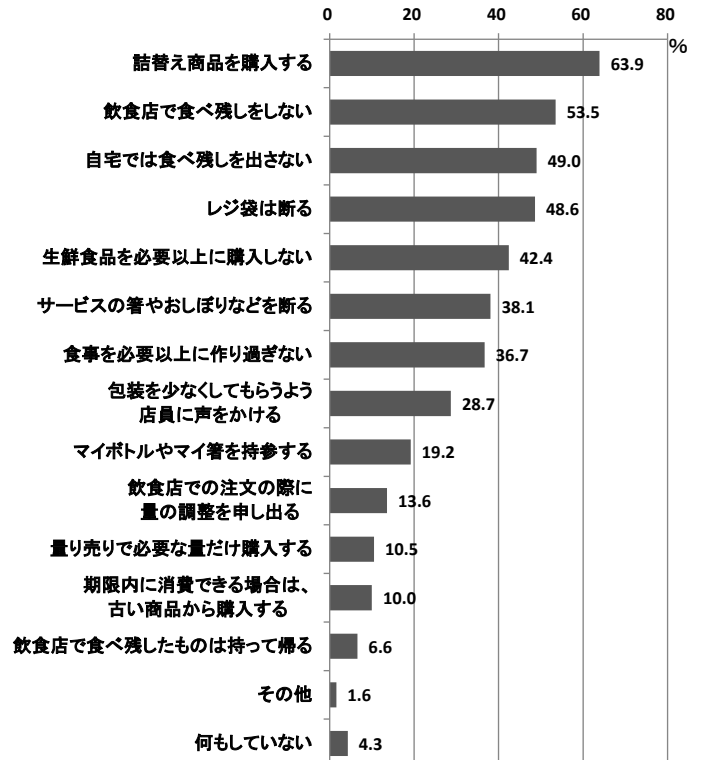
平成21年度横浜市民意識調査では、「詰替え商品を購入する」「飲食店で食べ残しをしない」「自宅では食べ残しを出さない」「レジ袋を断る」「生鮮食品を必要以上に購入しない」が上位5項目となっている。



<参考 平成23年度調査結果との比較>



<参考 平成21年度横浜市民意識調査との比較>



平成 25 年度 青葉区区民意識調査 調査結果 報告書 概要版

発行日 平成 25 年 8 月

発行 青葉区 総務部 区政推進課 企画調整係
〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町 31 番地 4

TEL 045 (978) 2217

FAX 045 (978) 2410

<http://www.city.yokohama.lg.jp/aoba/50kusei/research.html>